

科学者委員会男女共同参画分科会  
Gender Summit 10 フォローアップ小分科会（第24期・第3回）議事要旨

1 日 時 平成30年7月27日（金）10時30分～12時00分

2 場 所 日本学術会議 6-B 会議室（6階）

3 出席者

渡辺美代子委員長、行木陽子幹事、伊藤公雄委員、井野瀬久美恵委員、  
藤井良一委員、森初果委員（ビデオ出席）  
岸村顕広連携会員、高瀬堅吉連携会員

4 配布資料

資料1 学術フォーラム「ジェンダー視点を変える科学・技術の未来～GS10 フォローアップ～」の報告

資料2 学術の動向12月号の企画（案）

資料3 公開シンポジウム「ハラスメントを鏡に、日本社会を検証する——なぜまっとうな議論ができないのか？」ポスター

5 議題

（1）小分科会の体制について

- ・幹事に伊藤公雄委員を追加することが承認された。

（2）学術の動向について

- ・GS10 特集を含め、ジェンダー特集がよく読まれているというデータが紹介された。
- ・今年12月号に、6月14日に開催された学術フォーラム「ジェンダー視点を変える科学・技術の未来～GS10 フォローアップ～」の特集が掲載されることになった。

（参考）

- ・7月19日に『学術の動向』改革戦略会議が京都で行われ、そこで具体的な改革案が出された。それを整理してまずは広報委員会に諮り、承認を得て進めていく。当日の議論は『学術の動向』の中身のみならず、その体裁や広報のあり方にも及び、若手研究者はもちろん、学術以外の企業との連携（企業人に注目されること）を含めて、根本的な改革の必要性にも及んでいる。
- ・学術の動向の改革については、科学と社会委員会『学術の動向』編集分科会で審議を行い、10月総会の副会長報告に含めたい。

（3）今後の活動について

- ・議論を継続する場が必要なので、フォローアップシンポジウムは来年以降も継続的に開催する。
- ・若手研究者を必ず含め、次のアクションにつながる工夫が必要である。
- ・ジェンダーはすべての領域に関わる問題をはらんでいる。よって、関連する議論では、予定調和的ではなく、対立する意見を隠さず提示したうえで、しっかり議論することが重要である。6月14日開催された学術フォーラムではそれを実現した点が高く評価

されていることがアンケート調査から明らかになった。

(4) その他

- ・慰安婦問題は、「ジェンダーと紛争・戦争」といったグローバルな課題とそのコンテキストに置き直し、きちんと議論し、それが国際社会でたえず参照されることに力点を置き直す必要がある。日本でなぜこの問題が議論されなくなったかを考えると、この問題を置くコンテキストこそが重要になってくる。
- ・AIについても、想定している以上にジェンダー認識が甘い。AIが拓く未来を考えるためにも、ジェンダー視点からの発想、発言が必要である。
- ・多様な人間が議論に参加しやすい仕組みを工夫する必要がある。そうでないと一部の学者の問題に留まる。
- ・若手アカデミーを若手研究者の入口、学術会議(特に会員、連携会員であるシニア研究者)との議論の接点に位置付けることが重要である。
- ・次回の開催予定は未定。

以上